

平成29年11月16日

北海道新聞

## ゆめぴりか新米コンテスト日胆大会



# しずない農協最高賞

【新ひだか】道産ブランド米「ゆめぴりか」の新米の出来栄を産地間で競う「第3回ゆめぴりかコンテスト」の日胆地区大会が13日、苫小牧市内で開かれ、しずない農協が金賞を受賞した。札幌で21日に開かれる全道大会への出場が決まり、農協関係者が喜んでいる。

(升田一憲)

ゆめぴりかの生産技術向上やブランドの強化などを狙い、ホクレン苫小牧支所などでつくる北海道米販売拡大委員会が主催した。

地区大会には日高、胆振管内の全10農協が参加。日本料理店の料理長や弁当会社社長ら審査員8人が食味や香り、粘りなど計6項目を審査し、しずない農協の評価が最も高かった。町静内豊畑のコメ農家で静内稲作振興会の村田信治会長

## 21日、全道大会へ 土壌改良で食味よく

作振興会の村田信治会長(50)は「おいしいコメ作りに向け、関係者が長年取り組んだ努力が認められてうれしい」と喜んだ。

しずない農協は町静内地区の農家5軒の計23畝でゆめぴりかを栽培している。馬産地の特徴を最大限に生かし、馬ふんの堆肥を水田にまくなどの土壌改良を長年続けている。馬ふんは牛ふんに比べ窒素の含有量が低いため、おいしいコメ作りの基準になる低タンパク米につながるという。

しずない農協のゆめぴりかは他のコメと比べて生産量が少ないことから、全道大会は参考出品となる。

丹野潤一営農部次長は「大会への参加は静内のゆめぴりかを広く知らせるチャンス。大いに売り込みたい」と話している。